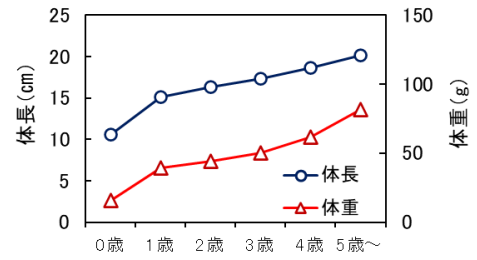


# マイワシ

## 生態的特徴等

### 【生態】

日本周辺に広く分布し、季節により大きく回遊する。太平洋側では春から夏にかけて房総～三陸沖を北上し、道東周辺で夏を過ごした後、秋から冬にかけて三陸～房総海域を南下する。成魚は関東近海から四国沿岸で産卵するが、未成魚は常磐～房総海域で越冬する。産卵期は11～6月で盛期は2～4月である。動物プランクトンを食べて成長するが、成魚は植物プランクトンも食べることができる。2歳でほとんどが成熟し、寿命は7歳程度である。成長に伴って呼び名が変わり、ヒラゴ（体長：10 cm前後）、小羽（12～13 cm）、小中羽（14～15 cm）、中羽（16～17 cm）、ニタリ（18～19 cm）、大羽（20 cm～）と呼ばれる（図1）。



### 【漁法と盛漁期】

茨城県では、主にまき網で漁獲される。晩秋～初冬は産卵に向かう中羽～大羽、冬～春は未成魚越冬群（小羽～小中羽）、晩春～初夏は産卵後の中羽～大羽の漁場が形成される。

### 【利用】

刺身や塩焼のほか、丸干し、缶詰、魚粉などの加工原料や近年は冷凍輸出品としても利用されている。栄養豊富で、血液をサラサラにして生活習慣病予防に役立つEPAやDHAを多く含んでいる。産卵後に北上回遊を始めた魚は脂がのり、特に梅雨時期に漁獲されるものは「入梅イワシ」と呼ばれている。

## 資源水準は高位、動向は横ばい傾向

（漁獲量）マイワシは数十年スケールで大規模に変動する資源である。北部太平洋まき網と道東操業船による漁獲量はH元年まで200万トンを超えていたが、漁場の縮小と共に急減してH17年には約8千トンとなった。H22年以降は増加傾向に変わり、資源の増加と共に漁場は再び道東沖まで拡大し、R6年の漁獲量は40万トンとなっている（図2）。

（加入量）冬春季に常磐～房総海域で漁獲される未成魚越冬群（1歳魚）の漁獲状況において、H13～21年級群はほとんど加入がみられなかったが、H22年級群以降は良好な加入が継続している。

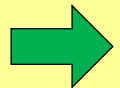
（水準と動向）国の資源評価（R7年度）によると、資源水準は「目標管理基準値を上回る」、動向は「横ばい」とされている（図3）。

水準



(国)

動向



(国)

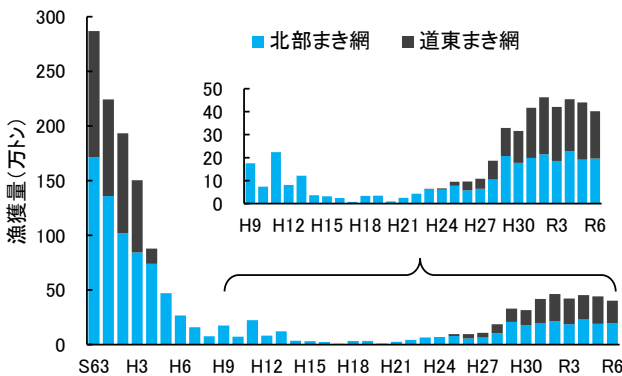


図2 マイワシ漁獲量<sup>\*1</sup>の推移

<sup>\*1</sup> 千葉県から青森県沖で操業するまき網の漁獲量で、北部太平洋まき網漁業協同組合連合会の集計値（北部まき網）および道東沖で操業するまき網の漁獲量で、北海道まき網漁業協会の集計値（道東まき網）

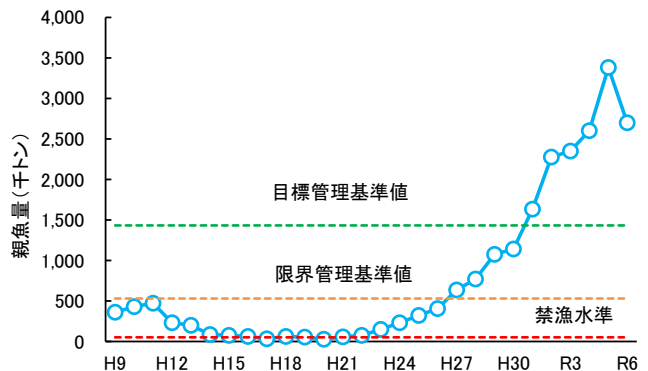


図3 マイワシ太平洋系群の親魚量と管理基準値<sup>\*2</sup>

<sup>\*2</sup> 新たな資源管理(MSY)に基づく管理基準値

### 【全国の漁獲動向】

- ・茨城県は全国第1位、2位は長崎県、3位は鳥取県（R6 漁業・養殖業生産統計）

評価期間: 令和6年1月～12月 更新日: 令和8年3月19日

引用: 古市 生・由上龍嗣・上村泰洋・西嶋翔太・井須小羊子・伊澤雄登・東口胤成・渡部亮介(2025) 令和7(2025)年度マイワシ太平洋系群の資源評価. 我が国周辺水域の漁業資源評価. 水産庁・水産研究・教育機構, 東京, 76pp, [https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries\\_resources/meeting/sto ck\\_assessment\\_meeting/2025/files/sa2025-sc08/fra-sa2025-sc08-01.pdf](https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries_resources/meeting/sto ck_assessment_meeting/2025/files/sa2025-sc08/fra-sa2025-sc08-01.pdf).